

津幡南中 3年生の皆さんへ PART 3

5月中旬になりました。本当なら、明日13日(水)から修学旅行に出発!でしたね。今ごろは、ワクワクしながら明日に向けての最終打ち合わせをしていたわけです。天気も良く、絶好の旅行日和だったなあ。本当に残念!!でも、2学期に実施できると信じ、もうしばらく我慢しましょう。

さて、先週配布された宿題は、進んでいますか?まだ詳しいことは決定していませんが、来週中には再度、課題回収・配布日が設定されると思っていてください。学年便りにも書いたように、来週提出になっている課題を、しっかりと確認して、頑張るってやること!

今回は、1・2年の復習用の問題を掲載します。毎年、ほとんどの3年生がぶつかるのが、「歴史で点数がとれない」ということです。特に、1年・2年の範囲がネックになっている人が多く見られます。そこで、**歴史の基本用語テスト**を載せました。今回は**1年生の範囲**です。全部で174問と大量ですが、ぜひ、トライしてみてください。答えも載せます。

目安としては・・・

- 170問以上正解 → 素晴らしい!大変しっかりと1年の範囲が理解できて、心配なし!これをキープしよう。
- 130問以上正解 → かなり力がついてますね。自信をもってください。間違えたところをしっかりと補強すればバッチリ!
- 100問以上正解 → まずまずです。できなかった問題を必ず覚え直して、さらに力をつけよう。
- 正解が100問未満 → 今ならまだ間に合います。うろ覚えのものは、教科書を読み返すなどして、しっかり思い出し、何度もトライしてみよう。

次回は、2年生の範囲を載せる予定です。

5月12日(火)

3年担当 鶴見 蘭里



歴史基本用語テスト PART1 中1編(古代～中世)

①	今から 200 万年ほど前に現れ、火や言葉を使い始めた人類。	
②	狩りや採集を行って移動しながら生活し、打製石器を使っていた時代。	
③	1 万年ほど前から使われるようになった、石の表面をみがいた石器。	
④	紀元前 3000 年ごろ、ナイル川のほとりでおこった古代文明。	
⑤	④で作られた、太陽を基準にして 1 年を 365 日として 12 か月に分ける暦。	
⑥	④で発明された、物の形や絵で意味を表した文字。	
⑦	チグリス川とユーフラテス川のほとりでおこった古代文明。	
⑧	⑦で発明され、ハンムラビ法典などに見られる、粘土板に刻まれた文字。	
⑨	紀元前 2500 年ごろ、パキスタンやインド周辺でおこった古代文明。	
⑩	紀元前 16 世紀ごろ、中国の黄河のほとりでおこった王朝。	
⑪	⑩の時代に作られた、漢字の基になった文字。	
⑫	春秋・戦国時代に、「仁」と「礼」を基本にした政治を説き、儒学（儒教）の祖となった人物。	
⑬	紀元前 3 世紀に中国を統一する秦を造り上げ、初めて皇帝になった人物。	
⑭	秦のあとに中国を統一し、紀元前 2 世紀の武帝のときに最も栄えた王朝。	
⑮	紀元前 2 世紀ごろに開かれ、⑤から中央アジアを通して西方との交易が盛んに行われた交通路。	
⑯	紀元前 8 世紀ごろからギリシャ人が地中海各地に建設した、アテネやスパルタなどの都市国家。	
⑰	マケドニアの王で、東方のペルシャを征服し、インダス川に達する大帝国を築いた人物。	

⑱	⑰の遠征によって、ギリシャの文化が東方に広まり、オリエントの文化と結び付いて生まれた文化。	
⑲	紀元前 5 世紀ごろのインドに生まれたシャカ（釈迦）が開いた宗教。	
⑳	紀元前後にパレスチナ地方に生まれ、キリスト教を開いた人物。	
㉑	6 世紀のアラビア半島に生まれたムハンマドが開いた宗教。	
22	地球が寒冷化して、氷期と間氷期をくり返し、日本列島が大陸と陸続きであった時代。	
23	日本にも旧石器時代があったことが明らかになった、群馬県にある遺跡。	
24	23 で発見された、石を打ち欠いて作られた、するどい刃を持つ石器。	
25	表面に縄目のような文様が付けられていることが多い、厚手の土器。	
26	縄文時代のころから人々が住んだ、地面をほったくぼみに柱を立てて屋根をかけた住居。	

27	縄文時代の人々が、食べ物の残りがすなどを捨てた場所。	
28	紀元前4世紀ごろ、大陸から九州北部に伝わり、やがて東日本まで広まった穀物栽培の技術。	
29	やや高温で焼かれて赤褐色をした、薄手でかための土器。	
30	主に祭りのための宝物として使われた、つりがね型の青銅器。	
31	国の王としての地位を認め(みと)めてもらうために、中国周辺の国々が中国の皇帝に貢(みつ)ぎ物をおくったこと。	
32	3世紀ごろに倭(わ)(日本)にあったとされる、女王卑弥呼が治めていた国。	
33	中国の三(さん)国(ごく)時代の一国で、卑弥呼が使いを送ったとされる国。	
34	3世紀後半に奈(な)良(ら)盆(ぼん)地(ち)を中心とする地域に生まれた、近(きん)畿(き)地方の有力な豪(ごう)族(ぞく)で構成された強力な勢力。	
35	34を率いた王の呼び名。	

36	大仙古墳のように円形と四角を組み合わせた形の古墳。	
37	4世紀ごろに朝鮮半島南東部におこり、南西部の百濟などと対立した国。	
38	朝鮮半島から一族で日本列島に移り住み、さまざまな技術や文化を伝えた人々。	
39	38の人々が製法を伝えた、高温のかまで焼く、かたく黒っぽい土器。	
40	593年に聖徳太子が就いた、推古天皇の代理として政治を行う役職。	
41	聖徳太子と協力しながら政治を行った、物部氏と対立した豪族。	
42	聖徳太子が、家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に取り立てるために定めた制度。	
43	聖徳太子が、仏教や儒学の考え方を取り入れ、役人の心構えを示した法。	
44	聖徳太子が政治を行っていた6世紀末、中国で南北朝を統一し、強大な帝国を築いた王朝。	
45	607年、⑤の進んだ制度や文化を取り入れるため、聖徳太子の命を受けて国書を持って派遣された人物。	
46	6世紀半ば、朝廷に仏像や経典をおくって正式に仏教を伝えた朝鮮半島の国。	
47	聖徳太子が斑鳩に建てた、釈迦三尊像などの仏像が納められている寺院。	
48	47を代表とする、奈良盆地南部を中心に栄えた日本で最初の仏教文化。	
49	645年、中臣鎌足などとともに蘇我氏をたおし、政治改革を始めた人物。	
50	それまで豪族が支配していた土地と人々とを、国家の直接支配のもとに置こうとする方針。	
51	50をはじめ、朝廷や地方の組織を改めるなど、645年に始まった新しい支配の仕組みを作るための一連の改革。	
52	663年、百濟の復興を助けるために、朝鮮半島に大軍を送った日本が、唐と新羅の連合軍に敗れた戦い。	
53	49の没後、あつぎをめぐって起きた戦い。	
54	53に勝利して、即位した天皇。	

55	701年に唐の法律にならって作られた、全国を支配する仕組みを細かく定めた法令。	
56	710年に唐の都長安にならって奈良盆地北部に造られた都。	
57	富本銭よりあとに造られ、⑧の東市や西市でも流通していた貨幣。	
58	口分田の面積に応じ、収穫量の約3%の稲を納めた税。	
59	成人男子に課せられた、絹や布などの特産物を都まで運んで納める税。	
60	兵役の負担のうち、3年間、九州北部の警備にあたった者。	
61	戸籍に登録された6歳以上の全ての人々に口分田をあたえ、死ぬと国に返させた制度。	
62	743年に出され、新しく開墾した土地の永久私有を認めた法令。	
63	63によって、有力な貴族や寺院が盛んに広げ、独占した私有地。	
64	聖武天皇が仏教の力で国家を守ろうと、国ごとに建てさせた寺院。	
65	聖武天皇が都に建てさせ、金銅の大仏をまつた寺院。	
66	奈良時代に一般の人々の間で仏教を広め、橋や用水路を造り、65の大仏の造立に協力した僧。	
67	聖武天皇の使用した道具や楽器などが納められていた、65にある校倉造の宝庫。	
68	「古事記」とともに奈良時代にまとめられた、日本の国のおこりなどが記された歴史書。	
69	大伴家持がまとめたといわれる、天皇や貴族だけでなく、防人や農民の歌まで収めた和歌集。	
70	律令政治を立て直そうとして、794年に新しく都を現在の京都市に移した天皇。	
71	70が794年に造営し、その後約1100年間続いた都の名称。	
72	797年に坂上田村麻呂が任命された、東北地方の蝦夷を征服するために設けられた軍の総司令官。	
73	遣唐使とともに唐にわたり、帰国後、延暦寺を建てて天台宗を広めた僧。	
74	遣唐使とともに唐にわたった空海が、帰国後に広めた仏教の宗派。	
75	唐のおとろえを理由に、遣唐使の停止を朝廷に訴えて認められた人物。	
76	成人した天皇のもとで、天皇を補佐する役職。	
77	四人の娘を天皇のきさきとすることで権力をにぎり、子の頼通とともに藤原氏の全盛期を築いた人物。	
78	藤原氏が摂政や76の職に就いて朝廷の実権をにぎり、行った政治。	
79	平安時代の貴族が生み出した、唐風の文化をふまえながらも、日本の風土や生活、日本人の感情に合った文化。	
80	仮名文字を使って紫式部が著した長編小説。	
81	平安時代に、紀貫之などがまとめた和歌集。	
82	複数の建物が渡殿と呼ばれる廊下で結ばれた、貴族の屋敷の建築様式。	
83	念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰。	
84	83によって藤原頼通が宇治に建てた、平安時代の代表的な阿弥陀堂。	

85	武士たちが貴族を主人にむかえ、多くの家来を従えて作ったまとまり。	
86	有力な 85 の中で、天皇の子孫で、東日本で勢力を広げた武士の一族。	
87	東北地方で平泉を拠点に力を持ち、中尊寺金色堂を建てた豪族。	
88	1086 年、白河天皇が、天皇の位をゆずった後に就いた位。	
89	白河天皇が 88 となった後、摂政や関白の力をおさえて行った政治。	
90	1159 年に起きた、平清盛が源義朝に勝ち、勢力を広げた争乱。	
91	平治の乱に勝利し、武士として初めて太政大臣の位に就いた人物。	
92	91 が兵庫（神戸市）の港を整備して貿易を行った、中国の王朝。	
93	平氏が壇ノ浦（山口県）でほろぼし、のちに 87 のもとにのがれた人物。	
94	鎌倉に幕府を開いて、1192 年に征夷大将軍になった人物。	
95	国ごとに置かれ、国内の軍事や警察などにあつた役職。	
96	荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の取り立てにあつた役職。	
97	将軍が、御家人の領地を保護したり、新しい領地をあたえたりしたこと。	
98	御家人が、京都の朝廷や鎌倉幕府を警備し、戦いが起こったときには命がけで軍役を果たすこと。	
99	北条氏が代々就いて政治の実権をにぎった、将軍を補佐する役職。	
100	1221 年、朝廷の勢力を回復しようとして後鳥羽上皇が挙兵した戦い。	
101	100 の後、鎌倉幕府が朝廷を監視するために京都に置いた機関。	
102	1232 年、北条泰時が御家人に評定での判断の基準を示すために定めた法令。	
103	武士が常に馬や弓矢の武芸によって心身をきたえていく態度や道徳。	
104	鎌倉時代に始まった、同じ田畑で米と麦を交互に作る農法。	
105	寺社の門前や交通の便利な所で、月に数回開かれるようになった市。	
106	後鳥羽上皇の命令で編集され、藤原や西行らの歌を収めた和歌集。	
107	東大寺南大門に置かれている、運慶らが制作した力強い彫刻。	
108	源平の争乱をえがき、琵琶法師によって語られた軍記物の代表作。	
109	浄土宗を開き、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えることを説いた僧。	
110	109 の弟子の親鸞が開いた、阿弥陀如来を信じることを説く仏教の宗派。	
111	栄西や道元が宋から伝えた、座禅によって自分の力でさとりを開こうとする教え。	
112	13 世紀初め、チンギス・ハンが部族の勢力を統一して築いた国。	
113	チンギス・ハンの孫で、都を大都（北京）に移し、国号を元と定めて中国を支配した皇帝。	
114	日本を服従させようとする②の要求を退けた、鎌倉幕府の執権。	
115	1274 年、元軍が博多湾岸に上陸し、幕府軍と戦った戦い。	
116	1281 年、再び攻めてきた元軍と幕府軍との戦い。	
117	115 と 116 の、二度にわたる元軍の襲来の総称。	
118	元寇や領地の分割相続などで生活が苦しくなった御家人が、手放した土地を取りもどせるように、鎌倉幕府が出した法令。	
119	鎌倉幕府をたおして政治の実権を朝廷に取りもどそうとした天皇。	
120	鎌倉幕府をほろぼそうとする⑧の味方に付き、のちに幕府を開いた人物。	

121 鎌倉幕府をたおした後醍醐天皇 <small>ごだいごてんのう</small> が始めた、天皇中心の新しい政治。	
122 足利尊氏 <small>あしかがたかうじ</small> が京都 <small>きょうと</small> に立てた天皇と、吉野 <small>よしの</small> の後醍醐天皇との二つの朝廷が戦いを続けた時代。	
123 1338年、北朝 <small>せいいたいしやうぐん</small> から征夷大將軍に任命された足利尊氏が開いた幕府。	
124 123の第3代將軍で、1392年に南北朝を統一した人物。	
125 123で、將軍の補佐 <small>ほさ</small> 役として置かれた役職。	
126 地方において、国司 <small>こくし</small> の権限を吸収し、国内の武士をまとめ、独自の支配をするようになった守護。	
127 14世紀の中国で、勢いのおとろえた元にかわって漢民族が建国した王朝。	
128 127が幕府に取りしまりを要求した、大陸沿岸で貿易の強要や、船をおそう行 <small>こう</small> 為 <small>い</small> をしていた集団。	
129 正式な貿易船に証明書を持たせて行った、127との貿易。	
130 14世紀末の朝鮮半島 <small>ちやうせん</small> で、李成桂 <small>りせいけい</small> が高麗 <small>こうらい</small> をほろぼして建国した国。	
131 15世紀初め、尚氏 <small>しやう</small> が沖縄島 <small>おきなわじま</small> を統一して建国し、日本や中国などと中継貿易を行って栄えた国。	
132 蝦夷地 <small>えぞち</small> （北海道 <small>ほっかいどう</small> ）で狩りや漁を行い、和人 <small>わじん</small> と交易を行っていた民族。	
133 室町時代 <small>むろまち</small> に土倉や酒屋、商人や手工業者などが同業者ごとに作った団体。	
134 室町時代に発達した、有力な農民を中心に、村ごとにまとまって作られた自治組織。	
135 土倉や酒屋などをおそって借金の帳消しなどを求めた農民 <small>ていこう</small> の抵抗。	
136 將軍のあとつぎ問題などをめぐって応仁の乱が始まったときの、室町幕府の第8代將軍。	
137 実力のある者が、力をのばして上の身分の者に打ち勝つ風潮。	
138 137の風潮にのって実権をにぎったり、守護大名が成長したりして各地に登場した大名。	
139 138が活躍 <small>かつやく</small> した、応仁の乱以後の時代。	
140 138が、城の周辺 <small>けらい</small> に家来を集め、商工業者を呼び寄せて造った町。	
141 138が、領国内の武士や民衆を取りしめるために定めた独自の法令。	
142 観阿弥・世阿弥の親子が、猿楽 <small>ざるがく</small> にほかの芸能の要素を取り入れながら大成した芸能。	
143 142の合間に演じられた、民衆の生活や感情をよく表した芸能。	
144 足利義満 <small>よしみつ</small> が京都の北山の別荘 <small>べっそう</small> に建てた、3層の建物。	
145 足利義政が京都の東山の別荘に建てた、2層の建物。	
146 145などに見られる、床の間などを設け現代の和風建築 <small>もと</small> の基となった建築様式。	
147 中国で学んだ雪舟 <small>せつしゆ</small> が日本で完成させた、墨一色 <small>すみ</small> で自然などを表現する絵画。	
148 カトリック教会の頂点 <small>けんい</small> に立ち、大きな権威 <small>けんい</small> を持っていた首長 <small>しゅちやう</small> 。	
149 聖地エルサレムをうばったイスラム勢力 <small>たいこう</small> に対抗するため、①の呼びかけに応じた西ヨーロッパ諸国の王や貴族が組織した軍隊。	
150 14世紀から16世紀にかけてイタリアから西ヨーロッパ各地に広がった、古代ギリシャやローマの文化を学び直す文芸復興の動き。	

151	16世紀初め、ローマ ^{きょうこう} 教皇の方針を批判し、聖書のみに基づく ^{もと} 教会を目指してルターやカルバンが始めた改革運動。
152	151の改革運動で、カトリック ^{こうぎ} 教会に抗議した人々。
153	151に対抗 ^{たいこう} し、カトリック教会内で進められた改革の中心となった団体。
154	キリスト教を広め、アジアの物産を直接手に入れるため、ヨーロッパ人が世界に進出していった時代。
155	1492年に大西洋を横断し、カリブ海の島に到達した人物。
156	1498年にアフリカ ^{なんたん} 南端を回って初めて海路でインドに到達した人物。
157	スペイン人がアメリカ大陸の先住民の文明をほろぼして支配したように、他国から移り住んだ人々が先住民を支配した地域。
158	1522年に初めて世界一周を成しとげた船隊を率いた人物。
159	17世紀にオランダがアジア貿易 ^{きよてん} の拠点としてバタビア（ジャカルタ）に設立した会社。
160	1543年、種子島に流れ着いた中国船に乗っていたポルトガル人によって、日本に初めて伝えられた武器。
161	1549年に日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師。
162	平戸 ^{ひらど} や長崎 ^{ながさき} などで、ポルトガル人やスペイン人と行った貿易。
163	駿河 ^{するが} の今川義元 ^{いまがわよしもと} を桶狭間の戦いで破って勢力を広げた、尾張 ^{おわり} の戦国大名。
164	163が、160を有効に使った戦い方で、甲斐 ^{かい} の武田勝頼 ^{たけだかつより} を破った戦い。
165	163が安土城下で実施した、座 ^ざ を廃止し、自由な商工業の発展を図った政策。
166	1582年、163にそむき、京都 ^{きょうと} の本能寺 ^{ほんのうじ} で自害に追いこんだ人物。
167	166をたおし、163の後継者争いに勝利して大阪城 ^{おおさか} を築いた人物。
168	163と167によって全国を統一する事業が進められた時代。
169	全国の田畑の面積や土地のよしあしを調べ、予想される ^{しゅうかく} 収穫量を全て ^{こくだか} 石高で表した土地事業政策。
170	武力による一揆 ^{いっき} を防ぐため、農民や寺社から刀や弓、やり、鉄砲などの武器を取り上げた政策。
171	169や170によって、武士と農民との身分の区別が明確になったこと。
172	茶の湯で質素なわび茶の作法を完成させた人物。
173	「唐獅子 ^{からじし} 図屏風 ^{ずびょうぶ} 」などの豪華ではなやかな絵を、ふすまや屏風などにえがいた人物。
174	戦国時代から安土桃山時代にかけて、貿易や宣教師によって伝えられたヨーロッパ ^{えいきょう} の文化の影響を受けて成立した芸術や流行 ^{ふうぞく} の風俗。

点 / 174 問中

3 年 組 番

歴史基本用語テスト PART1 中1編(古代～中世)

①	今から 200 万年ほど前に現れ、火や言葉を使い始めた人類。	原 人
②	狩りや採集を行って移動しながら生活し、打製石器を使っていた時代。	旧石器時代
③	1 万年ほど前から使われるようになった、石の表面をみがいた石器。	磨製石器
④	紀元前 3000 年ごろ、ナイル川のほとりでおこった古代文明。	エジプト文明
⑤	④で作られた、太陽を基準にして 1 年を 365 日として 12 か月に分ける暦。	太陽暦
⑥	④で発明された、物の形や絵で意味を表した文字。	象形文字
⑦	チグリス川とユーフラテス川のほとりでおこった古代文明。	メソポタミア文明
⑧	⑦で発明され、ハンムラビ法典などに見られる、粘土板に刻まれた文字。	楔形文字
⑨	紀元前 2500 年ごろ、パキスタンやインド周辺でおこった古代文明。	インダス文明
⑩	紀元前 16 世紀ごろ、中国の黄河のほとりでおこった王朝。	殷
⑪	⑩の時代に作られた、漢字の基になった文字。	甲骨文字
⑫	春秋・戦国時代に、「仁」と「礼」を基本にした政治を説き、儒学（儒教）の祖となった人物。	孔 子
⑬	紀元前 3 世紀に中国を統一する秦を造り上げ、初めて皇帝になった人物。	始皇帝
⑭	秦のあとに中国を統一し、紀元前 2 世紀の武帝のときに最も栄えた王朝。	漢
⑮	紀元前 2 世紀ごろに開かれ、⑤から中央アジアを通して西方との交易が盛んに行われた交通路。	シルクロード(絹の道)
⑯	紀元前 8 世紀ごろからギリシャ人が地中海各地に建設した、アテネやスパルタなどの都市国家。	ポリス
⑰	マケドニアの王で、東方のペルシャを征服し、インダス川に達する大帝國を築いた人物。	アレクサンドロス大王

⑱	⑰の遠征によって、ギリシャの文化が東方に広まり、オリエントの文化と結び付いて生まれた文化。	ヘレニズム
⑲	紀元前 5 世紀ごろのインドに生まれたシャカ（釈迦）が開いた宗教。	仏 教
⑳	紀元前後にパレスチナ地方に生まれ、キリスト教を開いた人物。	イエス
㉑	6 世紀のアラビア半島に生まれたムハンマドが開いた宗教。	イスラム教
22	地球が寒冷化して、氷期と間氷期をくり返し、日本列島が大陸と陸続きであった時代。	氷河時代
23	日本にも旧石器時代があったことが明らかになった、群馬県にある遺跡。	岩宿遺跡
24	23 で発見された、石を打ち欠いて作られた、するどい刃を持つ石器。	打製石器
25	表面に縄目のような文様が付けられていることが多い、厚手の土器。	縄文土器
26	縄文時代のころから人々が住んだ、地面をほったくぼみに柱を立てて屋根をかけた住居。	たて穴住居

27 縄文時代の人々が、食べ物の残りがすなどを捨てた場所。	貝塚
28 紀元前4世紀ごろ、大陸から九州北部に伝わり、やがて東日本まで広まった穀物栽培の技術。	稲作
29 やや高温で焼かれて赤褐色をした、薄手でかための土器。	弥生土器
30 主に祭りのための宝物として使われた、つりがね型の青銅器。	銅鐸
31 国の王としての地位を認め(みと)めてもらうために、中国周辺の国々が中国の皇帝に貢(みつ)ぎ物をおくったこと。	朝貢
32 3世紀ごろに倭(わ)(日本)にあったとされる、女王卑弥呼が治めていた国。	邪馬台国
33 中国の三(さん)国(ごく)時代の一国で、卑弥呼が使いを送ったとされる国。	魏
34 3世紀後半に奈(な)良(ら)盆(ぼん)地(ち)を中心とする地域に生まれた、近(きん)畿(き)地方の有力な豪(ごう)族(ぞく)で構成された強力な勢力。	大和政権
35 34を率いた王の呼び名。	大王

36 大仙古墳のように円形と四角を組み合わせた形の古墳。	前方後円墳
37 4世紀ごろに朝鮮半島南東部におこり、南西部の百濟などと対立した国。	新羅
38 朝鮮半島から一族で日本列島に移り住み、さまざまな技術や文化を伝えた人々。	渡来人
39 38の人々が製法を伝えた、高温のかまで焼く、かたく黒っぽい土器。	須恵器
40 593年に聖徳太子が就いた、推古天皇の代理として政治を行う役職。	摂政
41 聖徳太子と協力しながら政治を行った、物部氏と対立した豪族。	蘇我氏
42 聖徳太子が、家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に取り立てるために定めた制度。	冠位十二階(の制度)
43 聖徳太子が、仏教や儒学の考え方を取り入れ、役人の心構えを示した法。	十七条の憲法
44 聖徳太子が政治を行っていた6世紀末、中国で南北朝を統一し、強大な帝国を築いた王朝。	隋
45 607年、⑤の進んだ制度や文化を取り入れるため、聖徳太子の命を受けて国書を持って派遣された人物。	小野妹子
46 6世紀半ば、朝廷に仏像や経典をおくって正式に仏教を伝えた朝鮮半島の国。	百濟
47 聖徳太子が斑鳩に建てた、釈迦三尊像などの仏像が納められている寺院。	法隆寺
48 47を代表とする、奈良盆地南部を中心に栄えた日本で最初の仏教文化。	飛鳥文化
49 645年、中臣鎌足などととも蘇我氏をたおし、政治改革を始めた人物。	中大兄皇子(天智天皇)
50 それまで豪族が支配していた土地と人々とを、国家の直接支配のもとに置こうとする方針。	公地・公民
51 50をはじめ、朝廷や地方の組織を改めるなど、645年に始まった新しい支配の仕組みを作るための一連の改革。	大化の改新
52 663年、百濟の復興を助けるために、朝鮮半島に大軍を送った日本が、唐と新羅の連合軍に敗れた戦い。	白村江の戦い
53 49の没後、あつぎをめぐって起きた戦い。	壬申の乱

54	53に勝利して、即位した天皇。	天武天皇
55	701年に唐の法律にならって作られた、全国を支配する仕組みを細かく定めた法令。	大宝律令
56	710年に唐の都長安にならって奈良盆地北部に造られた都。	平城京
57	富本銭よりあとに造られ、⑧の東市や西市でも流通していた貨幣。	和同開珎
58	口分田の面積に応じ、収穫量の約3%の稲を納めた税。	租
59	成人男子に課せられた、絹や布などの特産物を都まで運んで納める税。	調
60	兵役の負担のうち、3年間、九州北部の警備にあたった者。	防人
61	戸籍に登録された6歳以上の全ての人々に口分田をあたえ、死ぬと国に返させた制度。	班田收授法
62	743年に出され、新しく開墾した土地の永久私有を認めた法令。	墾田永年私財法
63	63によって、有力な貴族や寺院が盛んに広げ、独占した私有地。	荘園
64	聖武天皇が仏教の力で国家を守ろうと、国ごとに建てさせた寺院。	国分寺(国分尼寺)
65	聖武天皇が都に建てさせ、金銅の大仏をまつた寺院。	東大寺
66	奈良時代に一般の人々の間で仏教を広め、橋や用水路を造り、65の大仏の造立に協力した僧。	行基
67	聖武天皇の使用した道具や楽器などが納められていた、65にある校倉造の宝庫。	正倉院
68	「古事記」とともに奈良時代にまとめられた、日本の国のおこりなどが記された歴史書。	日本書紀
69	大伴家持がまとめたといわれる、天皇や貴族だけでなく、防人や農民の歌まで収めた和歌集。	万葉集
70	律令政治を立て直そうとして、794年に新しく都を現在の京都市に移した天皇。	桓武天皇
71	70が794年に造営し、その後約1100年間続いた都の名称。	平安京
72	797年に坂上田村麻呂が任命された、東北地方の蝦夷を征服するために設けられた軍の総司令官。	征夷大將軍
73	遣唐使とともに唐にわたり、帰国後、延暦寺を建てて天台宗を広めた僧。	最澄
74	遣唐使とともに唐にわたった空海が、帰国後に広めた仏教の宗派。	真言宗
75	唐のおとろえを理由に、遣唐使の停止を朝廷に訴えて認められた人物。	菅原道真
76	成人した天皇のもとで、天皇を補佐する役職。	関白
77	四人の娘を天皇のきさきとすることで権力をにぎり、子の頼通とともに藤原氏の全盛期を築いた人物。	藤原道長
78	藤原氏が摂政や76の職に就いて朝廷の実権をにぎり、行った政治。	摂関政治
79	平安時代の貴族が生み出した、唐風の文化をふまえながらも、日本の風土や生活、日本人の感情に合った文化。	国風文化
80	仮名文字を使って紫式部が著した長編小説。	源氏物語
81	平安時代に、紀貫之などがまとめた和歌集。	古今和歌集

82	複数の建物が渡殿と呼ばれる廊下で結ばれた、貴族の屋敷の建築様式。	寝殿造
83	念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰。	浄土信仰
84	83によって藤原頼通が宇治に建てた、平安時代の代表的な阿弥陀堂。	平等院鳳凰堂
85	武士たちが貴族を主人にむかえ、多くの家来を従えて作ったまとまり。	武士団
86	有力な85の中で、天皇の子孫で、東日本で勢力を広げた武士の一族。	源氏
87	東北地方で平泉を拠点に力を持ち、中尊寺金色堂を建てた豪族。	奥州藤原氏
88	1086年、白河天皇が、天皇の位をゆずった後に就いた位。	上皇
89	白河天皇が88となった後、摂政や関白の力をおさえて行った政治。	院政
90	1159年に起きた、平清盛が源義朝に勝ち、勢力を広げた争乱。	平治の乱
91	平治の乱に勝利し、武士として初めて太政大臣の位に就いた人物。	平清盛
92	91が兵庫(神戸市)の港を整備して貿易を行った、中国の王朝。	宋
93	平氏が壇ノ浦(山口県)でほろぼし、のちに87のもとにのがれた人物。	源義経
94	鎌倉に幕府を開いて、1192年に征夷大將軍になった人物。	源頼朝
95	国ごとに置かれ、国内の軍事や警察などにあたる役職。	守護
96	荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の取り立てにあたる役職。	地頭
97	將軍が、御家人の領地を保護したり、新しい領地をあたえたりしたこと。	御恩
98	御家人が、京都の朝廷や鎌倉幕府を警備し、戦いが起こったときには命がけで軍役を果たすこと。	奉公
99	北条氏が代々就いて政治の実権をにぎった、將軍を補佐する役職。	執権
100	1221年、朝廷の勢力を回復しようとして後鳥羽上皇が挙兵した戦い。	承久の乱
101	100の後、鎌倉幕府が朝廷を監視するために京都に置いた機関。	六波羅探題
102	1232年、北条泰時が御家人に評定での判断の基準を示すために定めた法令。	御成敗式目(貞永式目)
103	武士が常に馬や弓矢の武芸によって心身をきたえていく態度や道徳。	弓馬の道
104	鎌倉時代に始まった、同じ田畑で米と麦を交互に作る農法。	二毛作
105	寺社の門前や交通の便利な所で、月に数回開かれるようになった市。	定期市
106	後鳥羽上皇の命令で編集され、藤原や西行らの歌を収めた和歌集。	新古今和歌集
107	東大寺南大門に置かれている、運慶らが制作した力強い彫刻。	金剛力士像
108	源平の争乱をえがき、琵琶法師によって語られた軍記物の代表作。	平家物語
109	浄土を開き、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えることを説いた僧。	法然
110	109の弟子の親鸞が開いた、阿弥陀如来を信じることを説く仏教の宗派。	浄土真宗
111	栄西や道元が宋から伝えた、座禅によって自分の力でさとりを開こうとする教え。	禅宗
112	13世紀初め、チンギス・ハンが部族の勢力を統一して築いた国。	モンゴル帝国
113	チンギス・ハンの孫で、都を大都(北京)に移し、国号を元と定めて中国を支配した皇帝。	フビライ・ハン
114	日本を服従させようとする②の要求を退けた、鎌倉幕府の執権。	北条時宗
115	1274年、元軍が博多湾岸に上陸し、幕府軍と戦った戦い。	文永の役
116	1281年、再び攻めてきた元軍と幕府軍との戦い。	弘安の役
117	115と116の、二度にわたる元軍の襲来の総称。	元寇

118 元寇や領地の分割相續などで生活が苦しくなった御家人が、手放した土地を取りもどせるように、鎌倉幕府が出した法令。	(永仁の)徳政令
119 鎌倉幕府をたおして政治の実権を朝廷に取りもどそうとした天皇。	後醍醐天皇
120 鎌倉幕府をほろぼそうとする⑧の味方に付き、のちに幕府を開いた人物。	足利尊氏
121 鎌倉幕府をたおした後醍醐天皇が始めた、天皇中心の新しい政治。	建武の新政
122 足利尊氏が京都に立てた天皇と、吉野の後醍醐天皇との二つの朝廷が戦いを続けた時代。	南北朝時代
123 1338年、北朝から征夷大將軍に任命された足利尊氏が開いた幕府。	室町幕府
124 123の第3代將軍で、1392年に南北朝を統一した人物。	足利義満
125 123で、將軍の補佐役として置かれた役職。	管領
126 地方において、国司の権限を吸収し、国内の武士をまとめ、独自の支配をするようになった守護。	守護大名
127 14世紀の中国で、勢いのおとろえた元にかわって漢民族が建国した王朝。	明
128 127が幕府に取りしまりを要求した、大陸沿岸で貿易の強要や、船をおそう行為をしていた集団。	倭寇
129 正式な貿易船に証明書を持たせて行った、127との貿易。	日明貿易(勘合貿易)
130 14世紀末の朝鮮半島で、李成桂が高麗をほろぼして建国した国。	朝鮮国
131 15世紀初め、尚氏が沖縄島を統一して建国し、日本や中国などと中継貿易を行って栄えた国。	琉球王国
132 蝦夷地(北海道)で狩りや漁を行い、和人と交易を行っていた民族。	アイヌ民族
133 室町時代に土倉や酒屋、商人や手工業者などが同業者ごとに作った団体。	座
134 室町時代に発達した、有力な農民を中心に、村ごとにまとまって作られた自治組織。	惣
135 土倉や酒屋などをおそって借金の帳消しなどを求めた農民の抵抗。	土一揆
136 將軍のあとつぎ問題などをめぐって応仁の乱が始まったときの、室町幕府の第8代將軍。	足利義政
137 実力のある者が、力をのばして上の身分の者に打ち勝つ風潮。	下剋上
138 137の風潮にのって実権をにぎったり、守護大名が成長したりして各地に登場した大名。	戦国大名
139 138が活躍した、応仁の乱以後の時代。	戦国時代
140 138が、城の周辺に家来を集め、商工業者を呼び寄せて造った町。	城下町
141 138が、領国内の武士や民衆を取りしめるために定めた独自の法令。	分国法
142 観阿弥・世阿弥の親子が、猿楽にほかの芸能の要素を取り入れながら大成した芸能。	能
143 142の合間に演じられた、民衆の生活や感情をよく表した芸能。	狂言
144 足利義満が京都の北山の別荘に建てた、3層の建物。	金閣
145 足利義政が京都の東山の別荘に建てた、2層の建物。	銀閣
146 145などに見られる、床の間などを設け現代の和風建築の基となった建築様式。	書院造
147 中国で学んだ雪舟が日本で完成させた、墨一色で自然などを表現する絵画。	水墨画
148 カトリック教会の頂点に立ち、大きな権威を持っていた首長。	ローマ教皇(法王)

149 聖地エルサレムをうばったイスラム勢力に対抗 ^{たいこう} するため、①の呼びかけに応じた西ヨーロッパ諸国の王や貴族が組織した軍隊。	十字軍
150 14世紀から16世紀にかけてイタリアから西ヨーロッパ各地に広がった、古代ギリシャやローマの文化を学び直す文芸復興の動き。	ルネサンス
151 16世紀初め、ローマ ^{きょうこう} 教皇の方針を批判し、聖書のみ ^{もと} に基づく教会を目指してルターやカルバンが始めた改革運動。	宗教改革
152 151の改革運動で、カトリック教会に抗議 ^{こうぎ} した人々。	プロテスタント
153 151に対抗 ^{たいこう} し、カトリック教会内で進められた改革の中心となった団体。	イエズス会
154 キリスト教を広め、アジアの物産を直接手に入れるため、ヨーロッパ人が世界に進出していった時代。	大航海時代
155 1492年に大西洋を横断し、カリブ海の島に到達した人物。	コロンブス
156 1498年にアフリカ南端 ^{なんたん} を回って初めて海路でインドに到達した人物。	バスコ・ダ・ガマ
157 スペイン人がアメリカ大陸の先住民の文明をほろぼして支配したように、他国から移り住んだ人々が先住民を支配した地域。	植民地
158 1522年に初めて世界一周を成しとげた船隊を率いた人物。	マゼラン
159 17世紀にオランダがアジア貿易 ^{きよてん} の拠点としてバタビア（ジャカルタ）に設立した会社。	東インド会社
160 1543年、種子島に流れ着いた中国船に乗っていたポルトガル人によって、日本に初めて伝えられた武器。	鉄砲
161 1549年に日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師。	(フランシスコ・) ザビエル
162 平戸 ^{ひらど} や長崎 ^{ながさき} などで、ポルトガル人やスペイン人と行った貿易。	南蛮貿易
163 駿河 ^{するが} の今川義元 ^{いまがわよしもと} を桶狭間 ^{おけはざま} の戦いで破って勢力を広げた、尾張 ^{おわり} の戦国大名。	織田信長
164 163が、160を有効に使った戦い方で、甲斐 ^{かい} の武田勝頼 ^{たけだかつより} を破った戦い。	長篠の戦い
165 163が安土城下 ^{あづち} で実施した、座 ^ざ を廃止し、自由な商工業の発展を図った政策。	楽市・楽座
166 1582年、163にそむき、京都 ^{きょうと} の本能寺 ^{ほんのうじ} で自害に追いこんだ人物。	明智光秀
167 166をたおし、163の後継者争い ^{こうけいしや} に勝利して大阪城 ^{おおさか} を築いた人物。	豊臣秀吉(羽柴秀吉)
168 163と167によって全国を統一する事業が進められた時代。	安土桃山時代
169 全国の田畑の面積や土地のよしあしを調べ、予想される収穫量 ^{しゅうかく} を全て石高 ^{こくだか} で表した土地事業政策。	太閤検地
170 武力による一揆 ^{いっき} を防ぐため、農民や寺社から刀や弓、やり、鉄砲などの武器を取り上げた政策。	刀狩
171 169や170によって、武士と農民との身分の区別が明確になったこと。	兵農分離
172 茶の湯で質素なわび茶の作法を完成させた人物。	千利休
173 「唐獅子図屏風 ^{からじしずびょうぶ} 」などの豪華ではなやかな絵を、ふすまや屏風などにえがいた人物。	狩野永徳
174 戦国時代から安土桃山時代にかけて、貿易や宣教師によって伝えられたヨーロッパの文化の影響 ^{えいきょう} を受けて成立した芸術や流行の風俗 ^{ふうぞく} 。	南蛮文化

点 / 174 問中

3 年 組 番